

2026年2月25日

各位

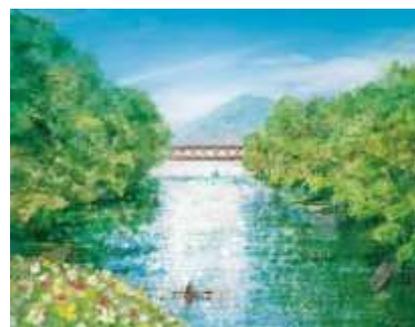
株式会社 北海道銀行

## 2026年版北海道銀行カレンダー採用作家 小菅謙三氏の作品展 「into の中へ～」の開催について

ほくほくフィナンシャルグループの北海道銀行（頭取 兼間 祐二）は、ほくほく札幌ビル1階「らいらっく・ぎやらりい」にて2026年版北海道銀行カレンダー採用作家 小菅謙三氏の作品展「into の中へ～」を開催することをお知らせいたします。

作品展は、カレンダー採用作品に加え、小菅氏がこれまで制作した作品や、今回の作品展のために新たに描き下ろした作品を展示いたします。開催期間中は小菅氏とその関係者が在廊し、作品の解説をいたしますのでぜひお越しください。

当行は、芸術文化振興に取り組むことで地域社会へ貢献してまいります。



北海道銀行カレンダー採用作品  
タイトル：煌めく支笏湖と山線鉄橋

### 記

#### 1. 開催概要

期 間	2026年3月10日（火）～3月16日（月） 11：00～13：00/14：00～17：00 （初日は13：30から/最終日は15：30まで） ※上記時間以外の施設中も7：00～22：00の間はガラス越しに作品を鑑賞いただけます。
場 所	ほくほく札幌ビル1階 らいらっく・ぎやらりい （札幌市中央区大通西2丁目5番地）
作 家	小菅 謙三（プロフィールは次ページを参照ください）
展示作品	2026年版北海道銀行カレンダーに採用された『煌めく支笏湖と山線鉄橋』と共に、アーティストの出発点ともいえる学生時代の重厚感のある大型作品『刻』から、ラオス滞在時にインスピレーションを得て描いた軽やかな小作品等を同時展示。
観 覧 料	無料

#### 2. 該当するSDGsの目標



SDGsは Sustainable Development Goals の略称で、2015年に国連で採択された2030年までに達成すべき17の目標と169の具体的なターゲットを定めた「持続可能な開発目標」です。ほくほくフィナンシャルグループは、2019年4月に「SDGs宣言」を表明しました。

以上

<本件に関するお問い合わせ先>

北海道銀行 経営企画部 広報CSR室 坂野・杉山 TEL (011) 233-1005

## 「煌めく支笏湖と山線鉄橋」(千歳市)

### 作品解説

日本屈指の透明度を誇る支笏湖。その湖水の美しさは「支笏湖ブルー」と呼ばれています。また周囲を恵庭岳や樽前山などに囲まれ、雄大な自然景観もさることながら、キャンプやカヤックなどの野外アクティビティでも人気の観光地になっていることはよく知られているでしょう。

支笏湖からは、はるか石狩川へと合流する千歳川が流れ出ています。その河口から支笏湖と恵庭岳を望んで描いたのがこの作品。画面の中央に描かれているのは「山線鉄橋」と呼ばれる鉄の歩道橋です。

この鉄橋は、今日では支笏湖のビジターセンターと親水公園を結んでいて、支笏湖を散策しながら楽しむことができるベストスポットになっています。しかし大正時代から戦後にかけては、王子製紙の軽便鉄道のために活躍していた鉄橋でした。

北海道に現存する最古の鉄橋といわれているもので、北海道の近代化に尽くした歴史的意義も大きく、「近代化産業遺産」として登録されているのです。鮮やかな朱色の鉄橋は周囲の自然ともよく調和していて、まさに支笏湖のシンボルとなっているといってもよいでしょう。

この絵で注目されるのは、鉄橋の下に輝く川面の光たちです。「キラキラと輝いてまるで宝石

のようだった」と作者は語ります。印象派の絵のように細かな点描で描かれたまばゆい輝き。その周辺には青や緑に染まった支笏湖ブルーの波がリズムカルに広がります。

季節は初夏でしょうか。川面の光に魅せられたように新緑の樹々が覆いかぶさり、岸辺の花々もその光を愛でているようです。川に浮かぶカヤックもその光へ向かって漕ぎ出しているのでしょうか。

しかしよく見ると、これらの光は鉄橋を照らしているように、あるいは鉄橋を包み込むように描かれていることに気づくでしょう。つまりこの光は支笏湖と山線鉄橋の歴史に寄り添うように描かれているのです。おそらく作者はこの橋が、時代や人の暮らしのかけ橋になっていること、加えて産業と自然の調和のかけ橋にもなっていることに想いをめぐらせ、それを光に託そうとしたのです。

空には飛行機雲。近隣の千歳空港から飛び立ったジェット機のものでしょうか。鉄道と飛行機の対比。作者はここにも時代と人の暮らしのかけ橋をひそかに描こうとしたのかもかもしれません。

佐藤 友哉 (美術評論家)



### 作家プロフィール・略歴

プロフィール	受賞歴
1983年 北海道 滝川市に生まれる	2002年 学生全道展 最高賞 北海道新聞社賞
2002年 北欧遊学	2008年 CNIPC センtral 新人 イラストレーション&ポスター コンペティション2008 Digital Epson賞
2006年 スペイン遊学	
2007年 金沢美術工芸大学 油画科 卒業	
2007年 上京し、映画録音技師となる	
2009年 マーケティング・ 広告デザイン事務所 入社	個展
2014年 北海道ヘリターン フリーランスとなる	2017年 「SORA」絵画展 ヴィラルビシア レストラン
2017年 デザイン事務所「空のアトリエ」設立	2019年 「LAOS」絵画展 空のアトリエ
2025年 絵の教室「虹のアトリエ」開設	

### ふたつがひとつ

娘を連れて、お気に入りの温泉のある支笏湖の湖畔を歩きました。湖面は絶えず光を受け、穏やかに、楽しそうに輝いています。千歳川と支笏湖がつながり、そこに架かる紅い山線鉄橋が結ばれたような景色に魅了され、スケッチをして帰りました。僕は小さい頃から絵を描くのが好きで、家族や先生に恵まれ、その想いのまま美大に進みました。二十歳を過ぎた頃、描く題材も気力も見失い、卒業と同時に筆を置き、東京で社会人となりました。3.11の地震やさまざまな巡り逢いを経て、北海道に帰って10年ほどになります。北海道は人も土地も寛大で、やわらかい土のように、いつも包み込んでくれます。感謝の気持ちを伝えるように、じっくり絵を描き込みました。この川と湖のように、過去と今、自分と世界— そのすべてがひとつにつながる気がしました。

小菅 謙三 (コスゲケンゾウ)